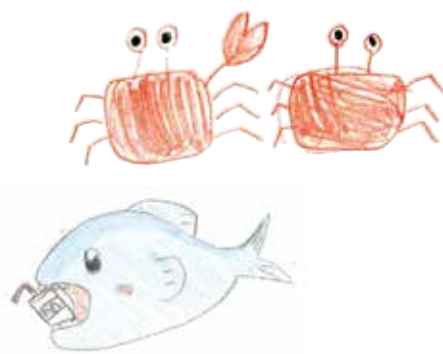


シーカヤックで冒険だ！

隊員たちは6日、家の浦海岸でシーカヤックとシュノーケリングに挑戦しました。2人乗りのシーカヤックでは「いち、にー」と声を出してパドルをこぐタイミングを合わせ、海面を滑るようなスピード感を満喫。シュノーケリングではダイバーと協力して海の生きものなどを観察しました。



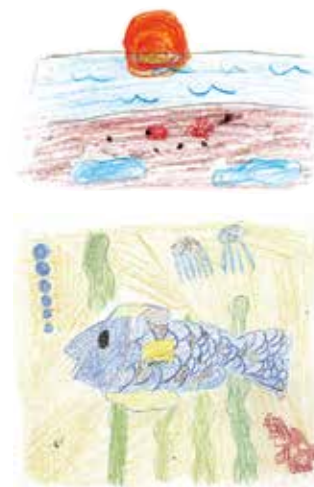
シーカヤックで沖合にこぎ出す隊員たち

ライフジャケットを装着した後、砂浜のシーカヤックに座って姿勢を確認。続いて波打ち際でパドルだけを握って、水を効果的にキャッチする方法を教してもらいました。乗船後は左右の旋回どころか直進もなかなかうまくできませんでしたが、だんだん操作に慣れてくると、楽に動かせるようになってきました。箱めがねで海をのぞくとスズメダイやボラなどが気持ちよさそうに泳いでいましたが、一方で海の底にはお菓子の袋やペットボトルが沈んでいて悲しい気持ちにもなりました。



シュノーケリング体験で海岸近くの海底から弁当の容器やお菓子の袋などを引き上げた隊員たち

海底ごみを探索



シュノーケリングも挑戦



ライフジャケットを着けて、堤防から海へ飛び込む隊員たち

隊員たちは6日、家の浦海岸で海遊びの際の安全を確保するためライフジャケットの装着方法を教わりました。模型を使った実験で、立ったまま水の中に入った場合、人間の体は9割が沈んでしまうことを確認。ライフジャケットを正しく使うと口や鼻が水面上に出ることを体で学びました。着用する時のポイントは▽体に密着するサイズを選ぶ▽腰や肩のベルトをきつめに占める▽おなかの前のバックルを正確にロックする一の3点。きちんと装着できていることを確認した上で、水面からの高さ約2 分の1の堤防から海に飛び込みました。ライフセーバーから、海岸から沖合に向かって強く流れる「離岸流」があることを教してもらいました。五輪に出る水泳選手よりも速い流れと聞き、驚きの声が上がりました。海に出る際は「大人と一緒に」「サンダルが流されても追いかけない」「ライフジャケットを着用する」の三つを必ず守ることも誓いました。

正しく着用海を満喫

ライフジャケットで安全に